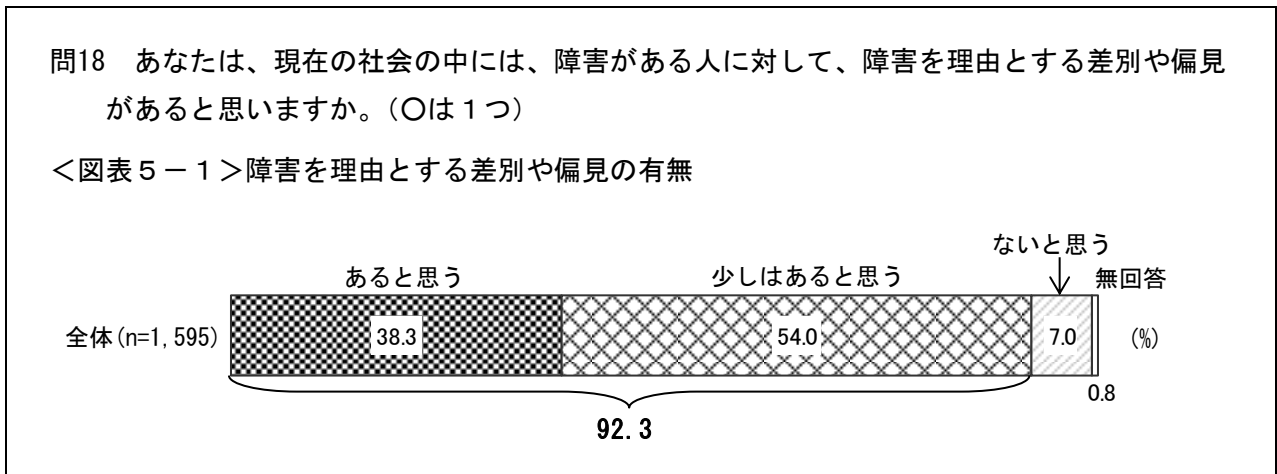


5 障害者施策について

（1）障害を理由とする差別や偏見の有無

◇『あると思う（計）』が9割を超える



障害を理由とする差別や偏見の有無について聞いたところ、「あると思う」（38.3%）と「少しはあると思う」（54.0%）を合わせた『あると思う（計）』（92.3%）が9割を超えている。

一方、「ないと思う」（7.0%）は約1割となっている。（図表5-1）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表5-2）

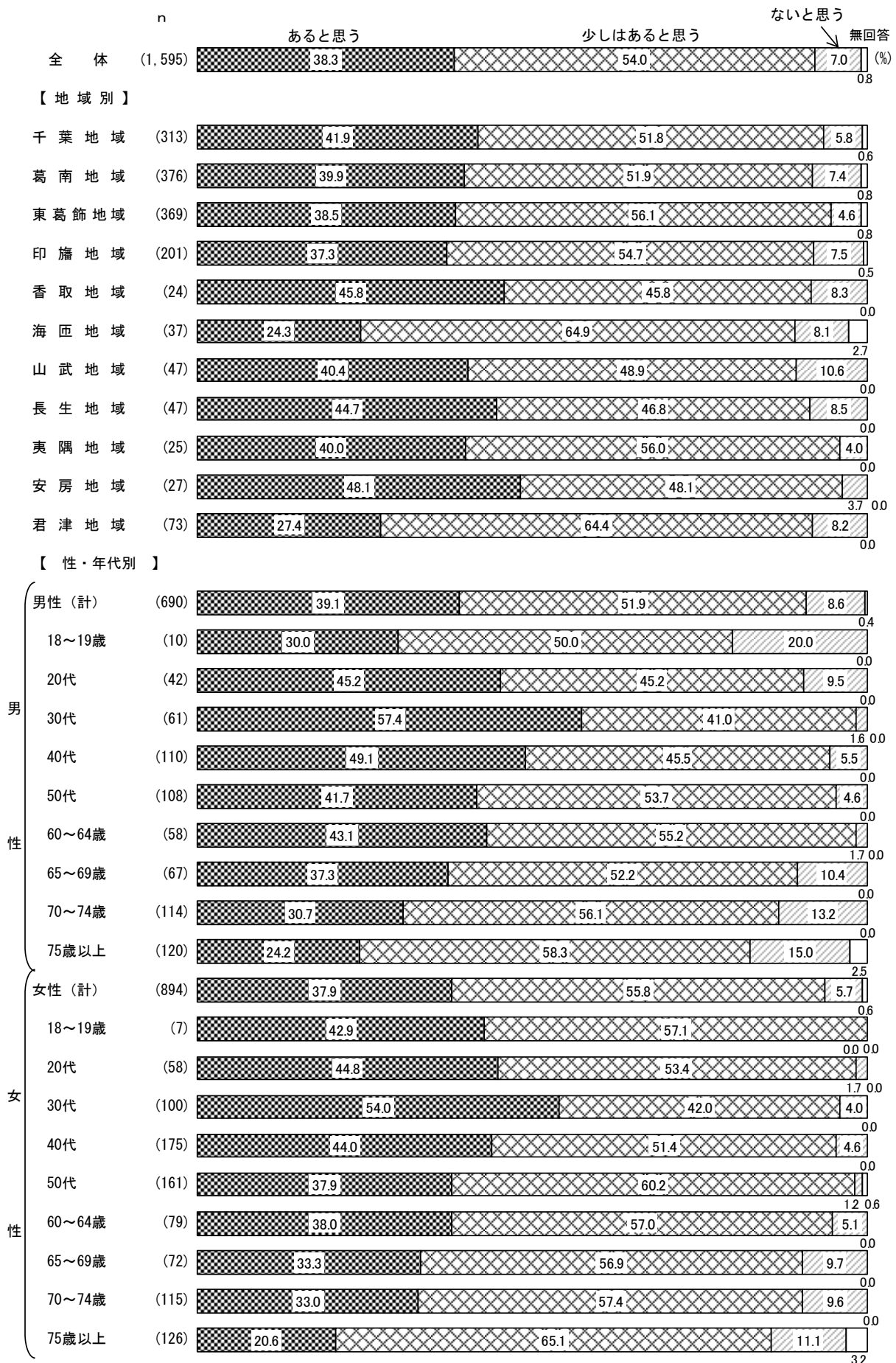
【性・年代別】

性・年代別にみると、『あると思う（計）』は女性の50代（98.1%）が約10割で高くなっている。

「あると思う」は男性の30代（57.4%）が約6割、女性の30代（54.0%）が5割台半ば、男性の40代（49.1%）が約5割と高くなっている。

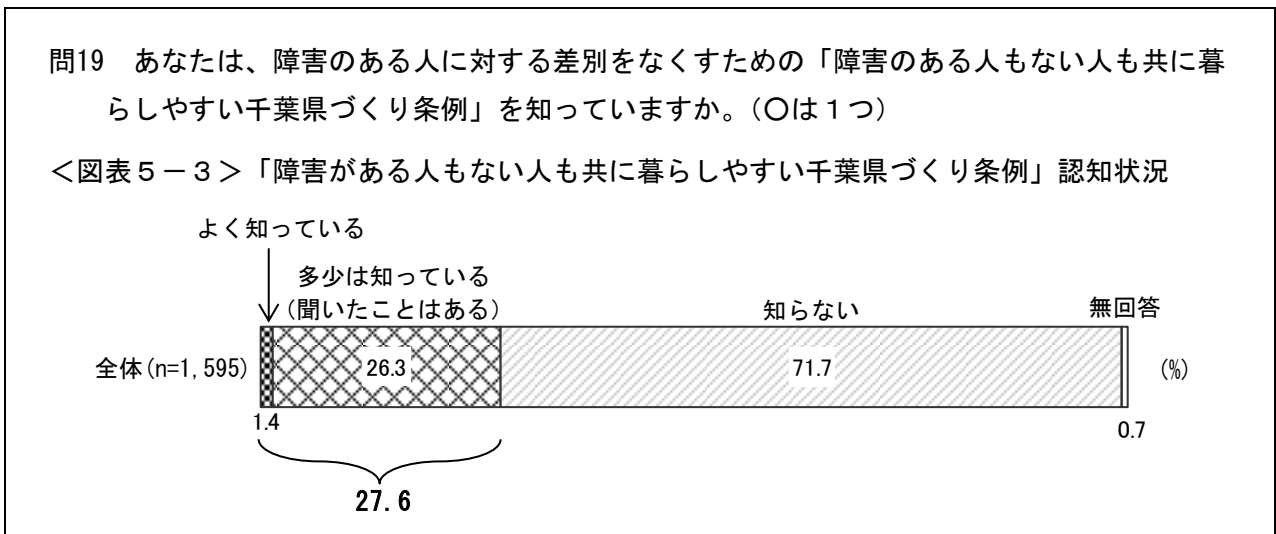
一方、「ないと思う」は男性の75歳以上（15.0%）が1割台半ば、男性の70～74歳（13.2%）が1割を超えて高くなっている。（図表5-2）

<図表5-2>障害を理由とする差別や偏見の有無／地域別、性・年代別



（2）「障害がある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況

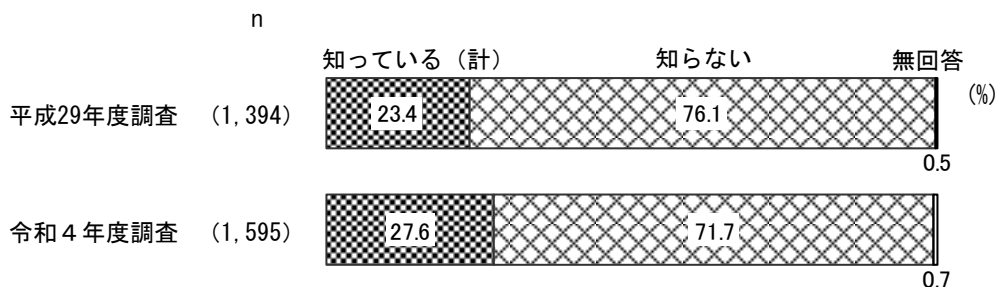
◇『知っている（計）』が約3割



「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(1.4%)と「多少は知っている(聞いたことはある)」(26.3%)を合わせた『知っている(計)』(27.6%)が約3割となっている。

一方、「知らない」(71.7%)は7割を超えている。(図表5-3)

【参考】平成29年度の同様項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。(図表5-4)

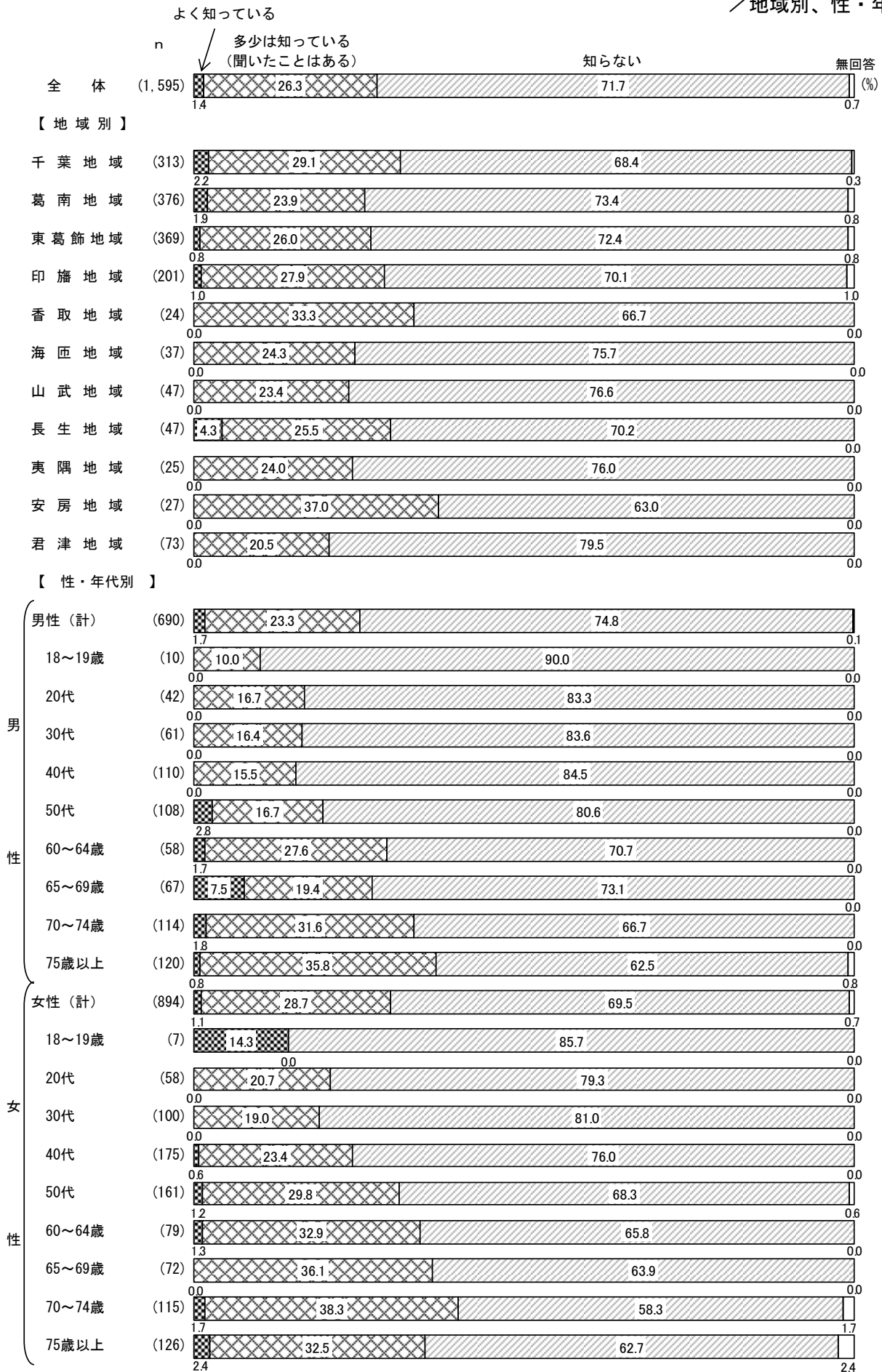
【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている(計)』は女性の70～74歳(40.0%)が4割、男性の75歳以上(36.7%)が3割台半ばと高くなっている。

一方、「知らない」は男性の40代(84.5%)と男性の30代(83.6%)が8割台半ば、女性の30代(81.0%)が8割を超え、男性の50代(80.6%)が8割で高くなっている。(図表5-4)

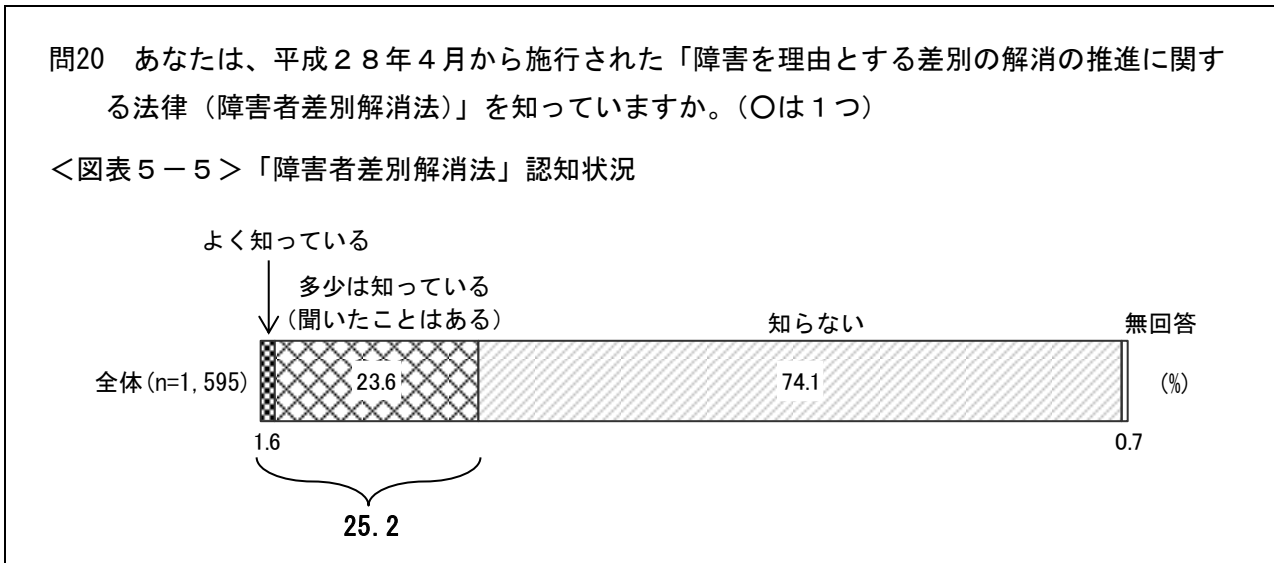
＜図表5-4＞「障害がある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況

／地域別、性・年代別



（3）「障害者差別解消法」認知状況

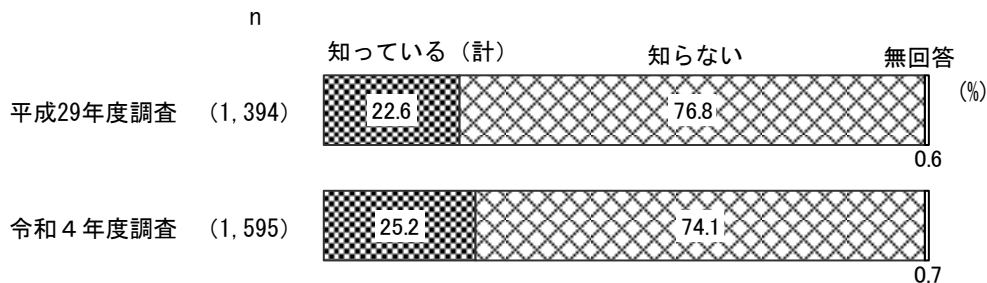
◇『知っている（計）』が2割台半ば



「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」（1.6%）と「多少は知っている（聞いたことはある）」（23.6%）を合わせた『知っている（計）』（25.2%）が2割台半ばとなっている。

一方、「知らない」（74.1%）は7割台半ばとなっている。（図表5-5）

〔参考〕平成29年度の同様項目による調査結果との比較（単位：%）



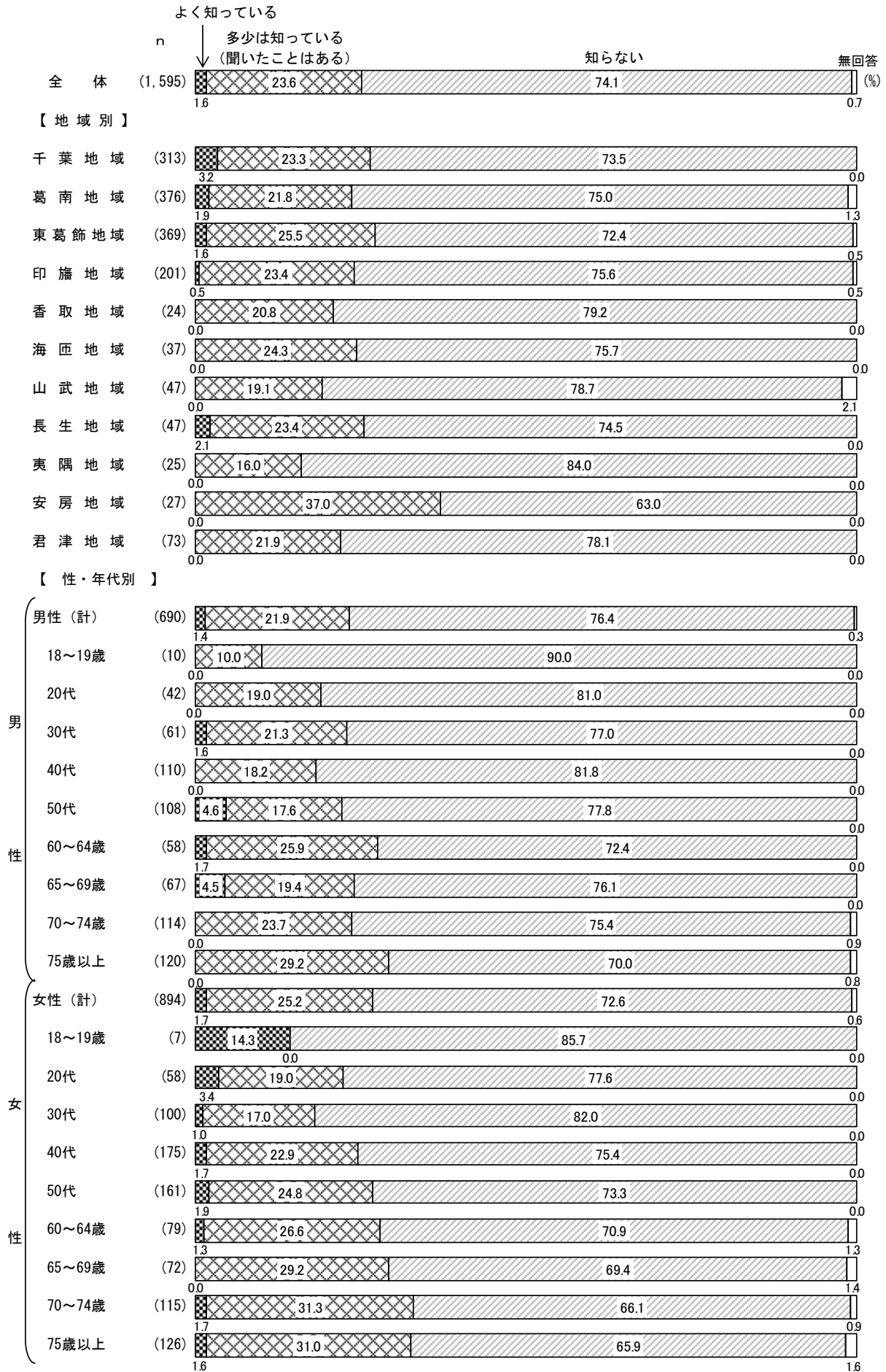
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表5-6）

【性・年代別】

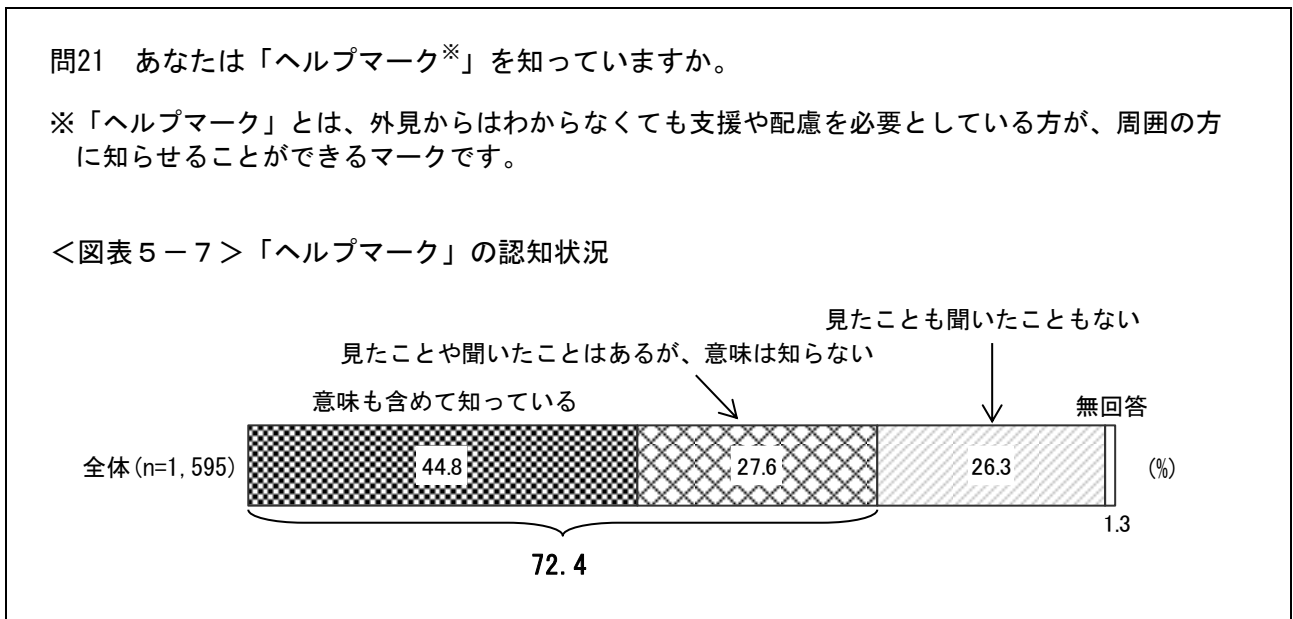
性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性の70～74歳（33.0%）と女性の75歳以上（32.5%）が3割を超えて高くなっている。（図表5-6）

＜図表5－6＞「障害者差別解消法」認知状況／地域別、性・年代別



（４）「ヘルプマーク」の認知状況

◇『見たことや聞いたことがある（計）』が7割を超える



「ヘルプマーク」を知っているか聞いたところ、「意味も含めて知っている」（44.8%）と「見たことや聞いたことはあるが、意味は知らない」（27.6%）と合わせた『見たことや聞いたことがある（計）』（72.4%）が7割を超えている。

一方、「見たことも聞いたこともない」（26.3%）が2割台半ばとなっている。（図表5-7）

【地域別】

地域別にみると、『見たことや聞いたことがある（計）』は“東葛飾地域”（77.8%）と“千葉地域”（77.0%）が約8割で高くなっている。

一方、「見たことも聞いたこともない」は“君津地域”（49.3%）が約5割で高くなっている。

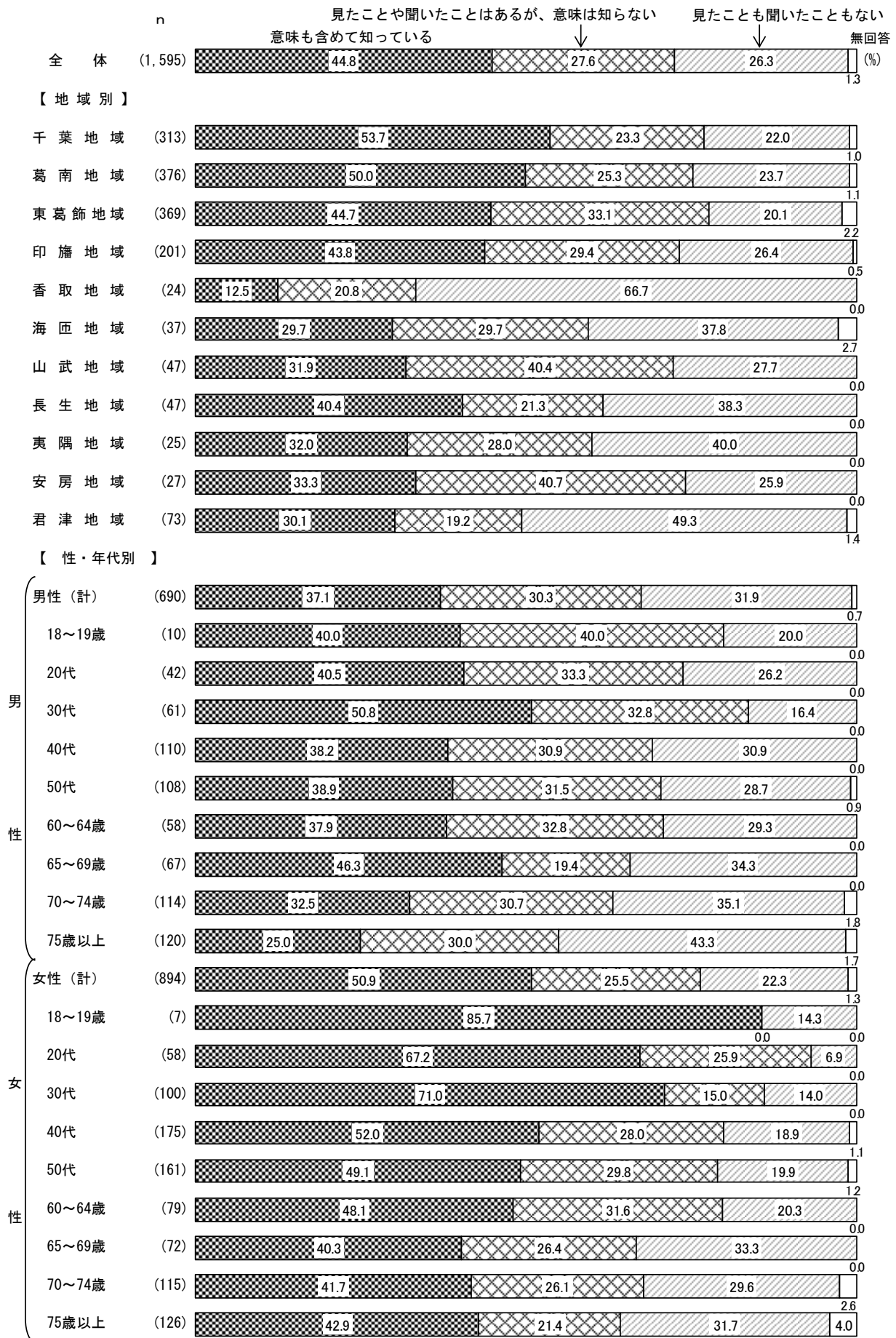
（図表5-8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『見たことや聞いたことがある（計）』は女性の20代（93.1%）が9割を超え、女性の30代（86.0%）と男性の30代（83.6%）が8割台半ば、女性の40代（80.0%）が8割で高くなっている。

一方、「見たことも聞いたこともない」は男性の75歳以上（43.3%）が4割を超え、男性の70～74歳（35.1%）が3割台半ばで高くなっている。（図表5-8）

<図表5-8> 「ヘルプマーク」の認知状況／地域別、性・年代別



（４－１）「ヘルプマーク」の認知経路

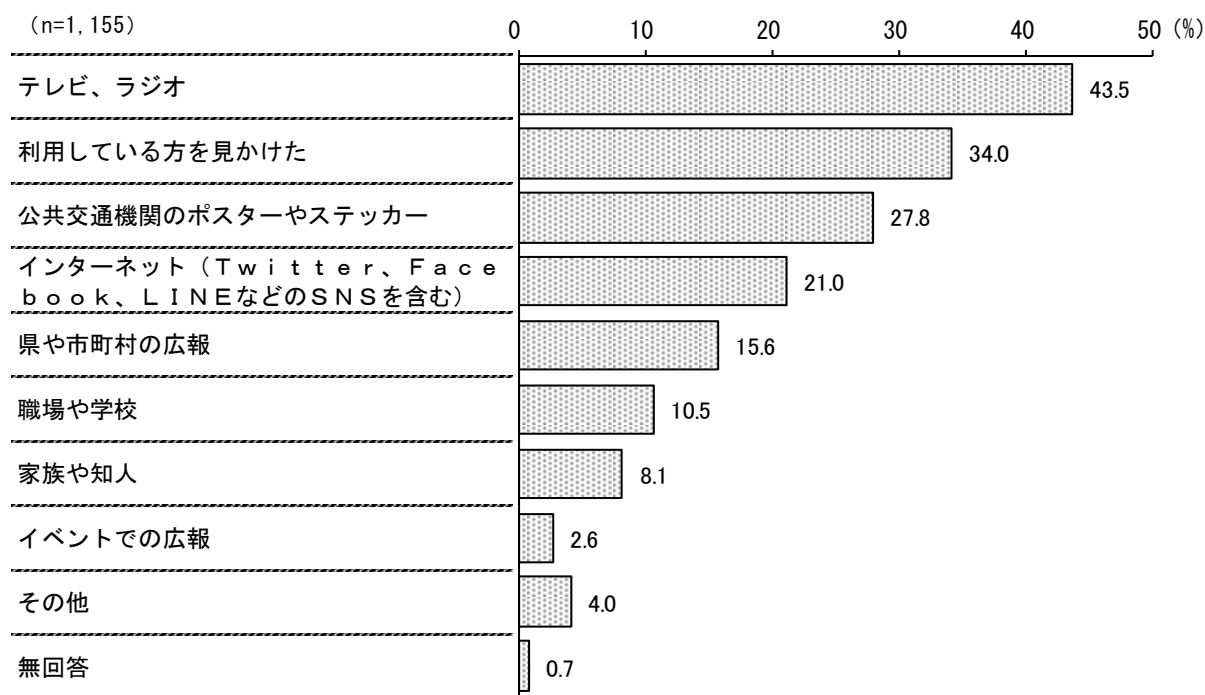
◇「テレビ、ラジオ」が４割台半ば

（問21で「意味も含めて知っている」または「見たことや聞いたことはあるが、意味は知らない」とお答えの方に）

問21－１ あなたはどのように「ヘルプマーク」について聞いたり、知ったりしましたか。

（〇はいくつでも）

<図表５－９> 「ヘルプマーク」の認知経路（複数回答）



「ヘルプマークを見たことや聞いたことがある」と回答した1,155人に、どのように聞いたり、知ったりしたか聞いたところ、「テレビ、ラジオ」（43.5%）が４割台半ばと最も高く、以下、「利用している方を見かけた」（34.0%）、「公共交通機関のポスターやステッカー」（27.8%）、「インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）」（21.0%）と続く。

（図表５－９）

【地域別】

地域別にみると、「利用している方を見かけた」は“葛南地域”（44.9%）が４割台半ばで高くなっている。

「インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）」は“君津地域”（36.1%）が３割台半ばで高くなっている。（図表５－10）

【性・年代別】

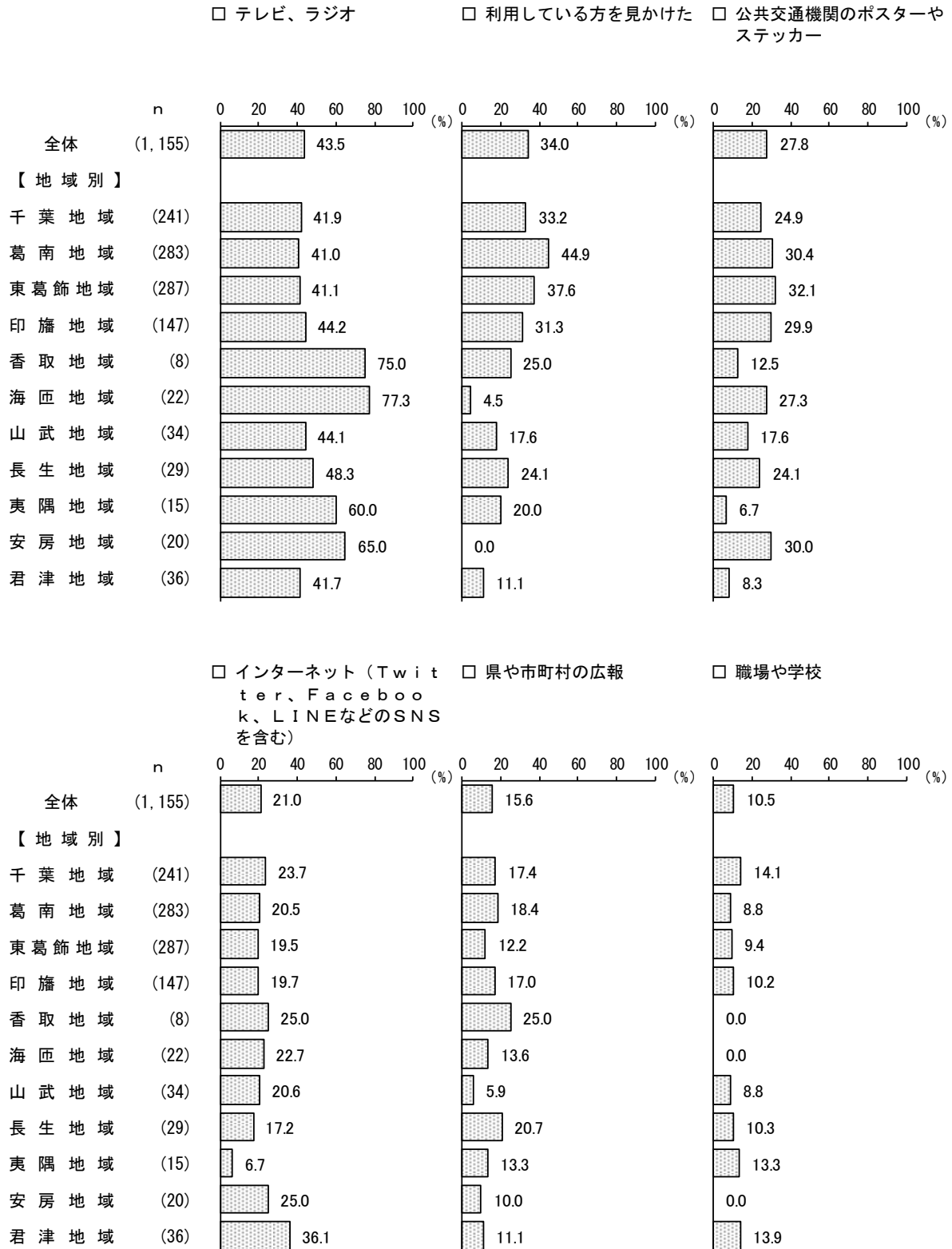
性・年代別にみると、「テレビ、ラジオ」は女性の65～69歳（66.7%）が６割台半ば、女性の75歳以上（60.5%）が６割、男性の70～74歳（55.6%）が５割台半ばで高くなっている。

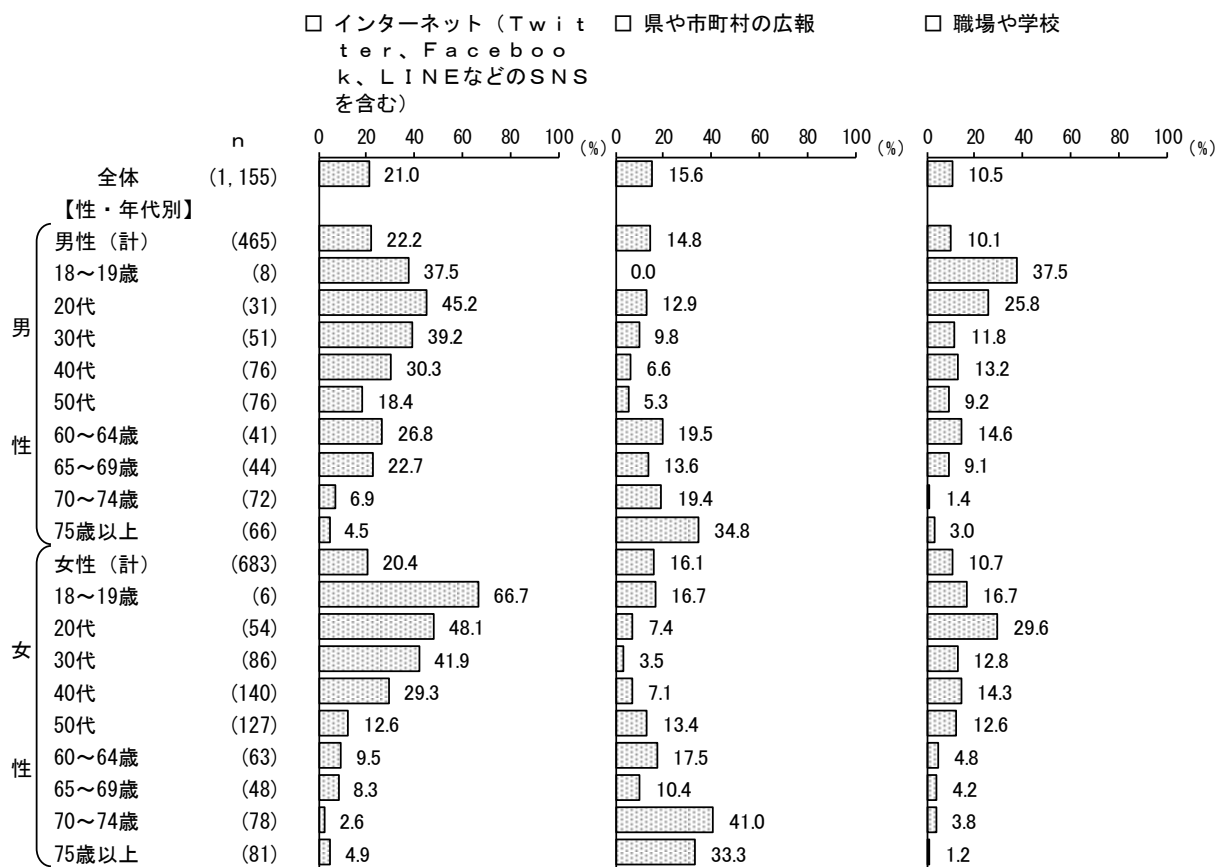
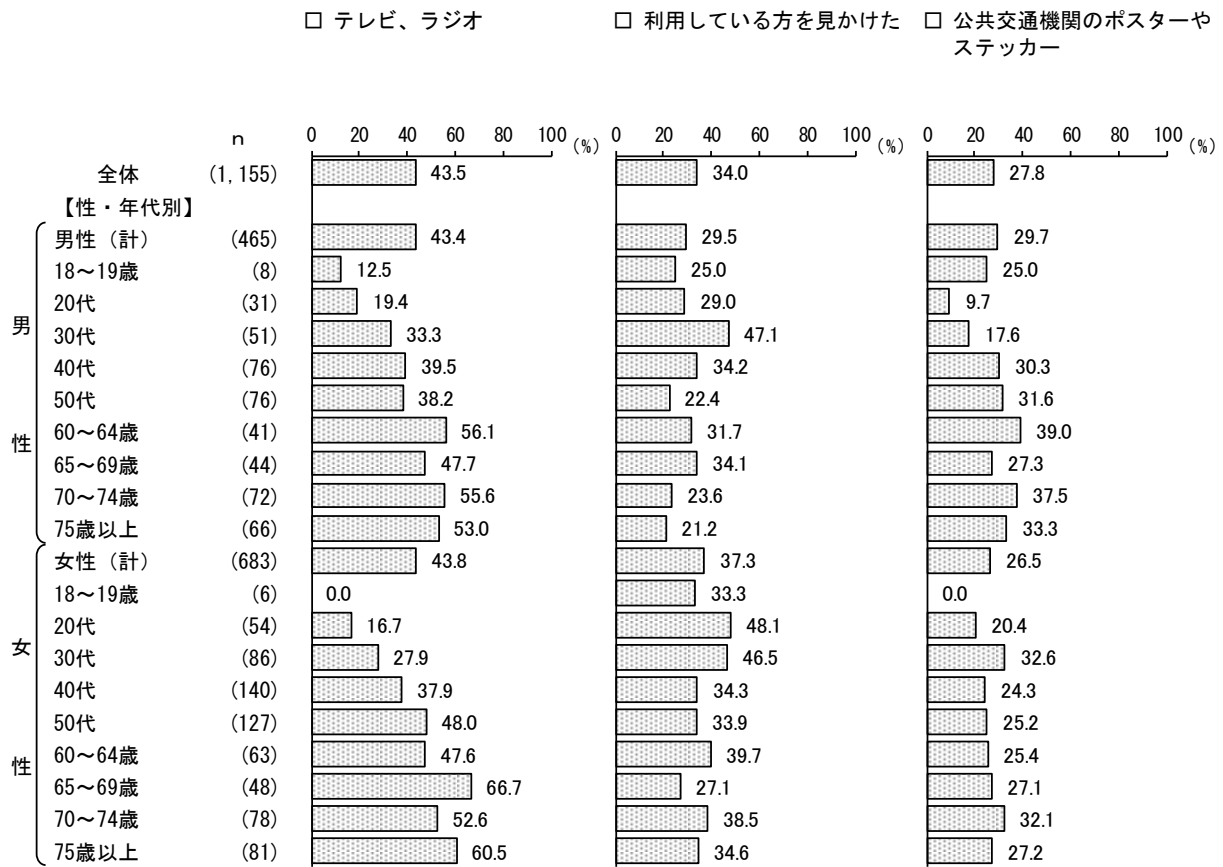
「利用している方を見かけた」は女性の20代（48.1%）と男性の30代（47.1%）が約５割、女性

の30代（46.5%）が4割台半ばで高くなっている。

「インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）」は女性の20代（48.1%）が約5割、男性の20代（45.2%）が4割台半ば、女性の30代（41.9%）が4割を超え、男性の30代（39.2%）が約4割、男性の40代（30.3%）が3割、女性の40代（29.3%）が約3割で高くなっている。（図表5-10）

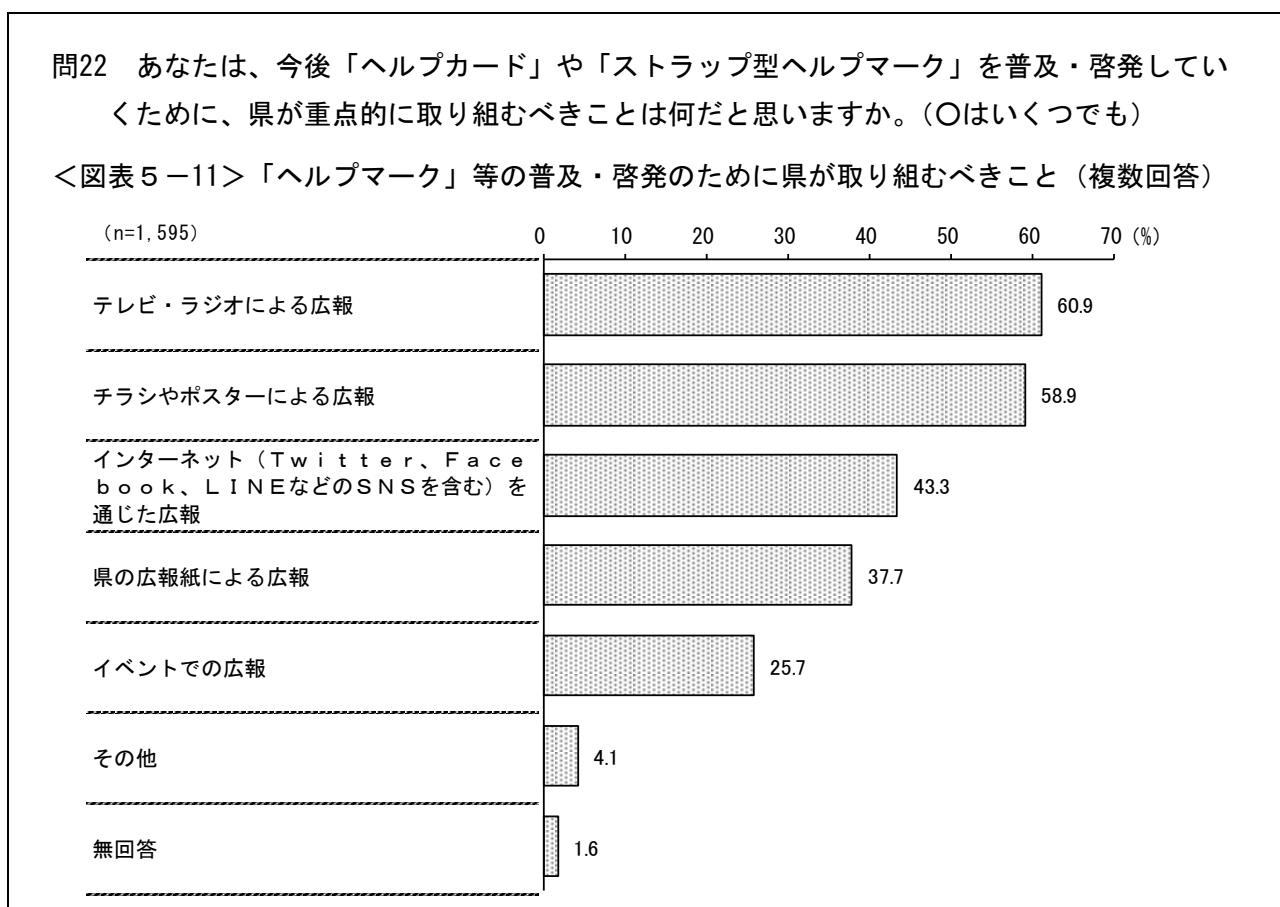
＜図表5-10＞「ヘルプマーク」の認知経路（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





（5）「ヘルプマーク」等の普及・啓発のために県が取り組むべきこと

◇「テレビ・ラジオによる広報」が6割



「ヘルプマーク」等の普及・啓発のために県が取り組むべきことを聞いたところ、「テレビ・ラジオによる広報」（60.9%）が6割で最も高く、以下、「チラシやポスターによる広報」（58.9%）、「インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）を通じた広報」（43.3%）、「県の広報紙による広報」（37.7%）と続く。（図表5-11）

【地域別】

地域別にみると、「テレビ・ラジオによる広報」は“君津地域”（72.6%）が7割を超えて高くなっている。

「インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）を通じた広報」は“葛南地域”（48.7%）が約5割で高くなっている。（図表5-12）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「テレビ・ラジオによる広報」は女性の60～64歳（72.2%）が7割を超えて高くなっている。

「チラシやポスターによる広報」は女性の60～64歳（73.4%）が7割を超え、女性の70～74歳（69.6%）が約7割で高くなっている。

「インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）を通じた広報」は女性の20代（75.9%）が7割台半ば、男性の20代（69.0%）と女性の30代（68.0%）が約7

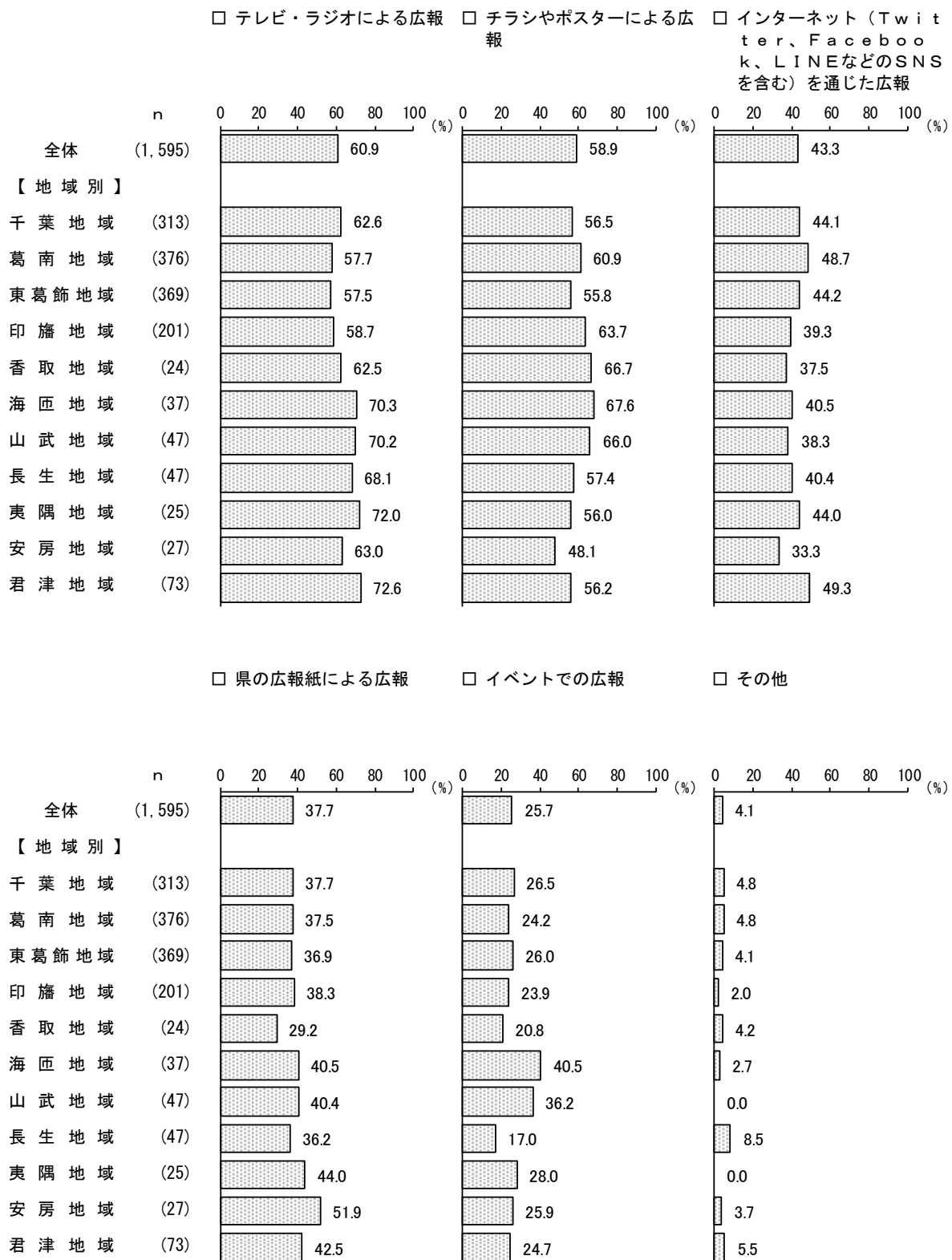
割、男性の40代（66.4%）が6割台半ば、女性の40代（62.3%）が6割を超え、男性の30代（57.4%）、男性の50代（57.4%）、女性の50代（57.1%）が約6割で高くなっている。

「県の広報紙による広報」は女性の70～74歳（60.9%）が6割、女性の75歳以上（59.5%）が約6割、男性の75歳以上（52.5%）が5割を超え、男性の70～74歳（47.4%）が約5割で高くなっている。

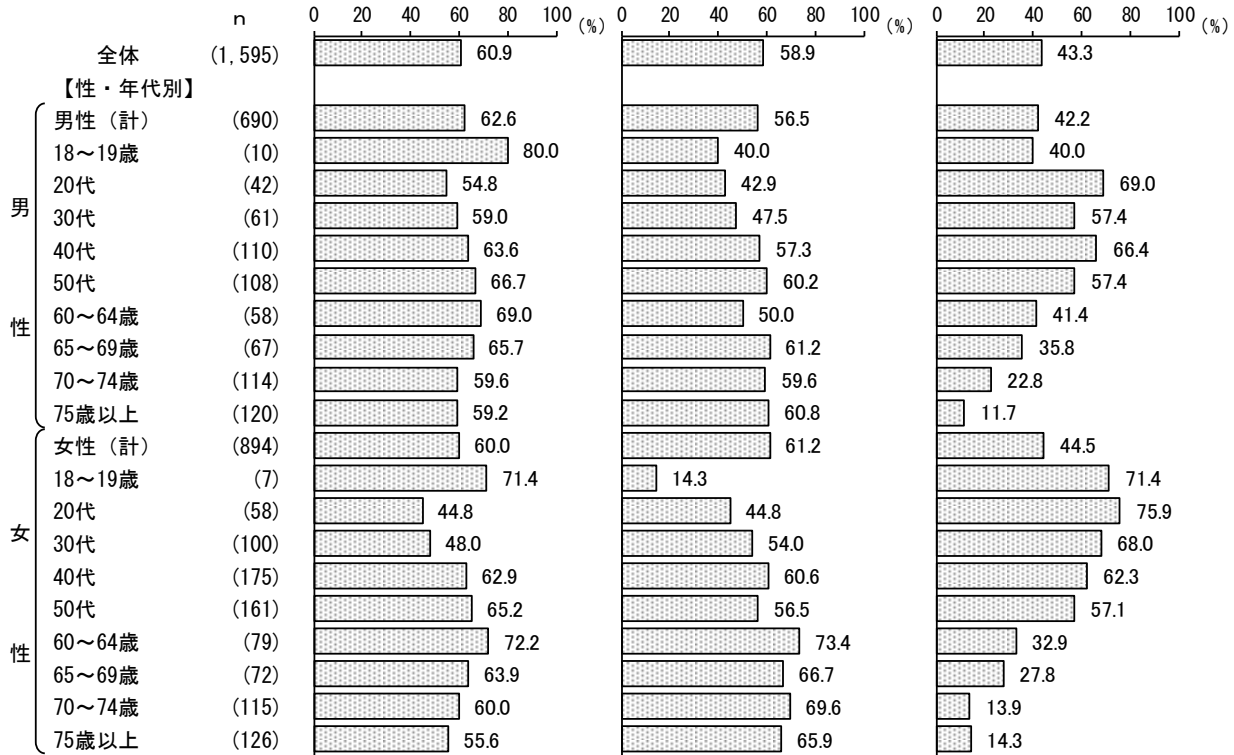
（図表5-12）

＜図表5-12＞「ヘルプマーク」等の普及・啓発のために県が取り組むべきこと（複数回答）

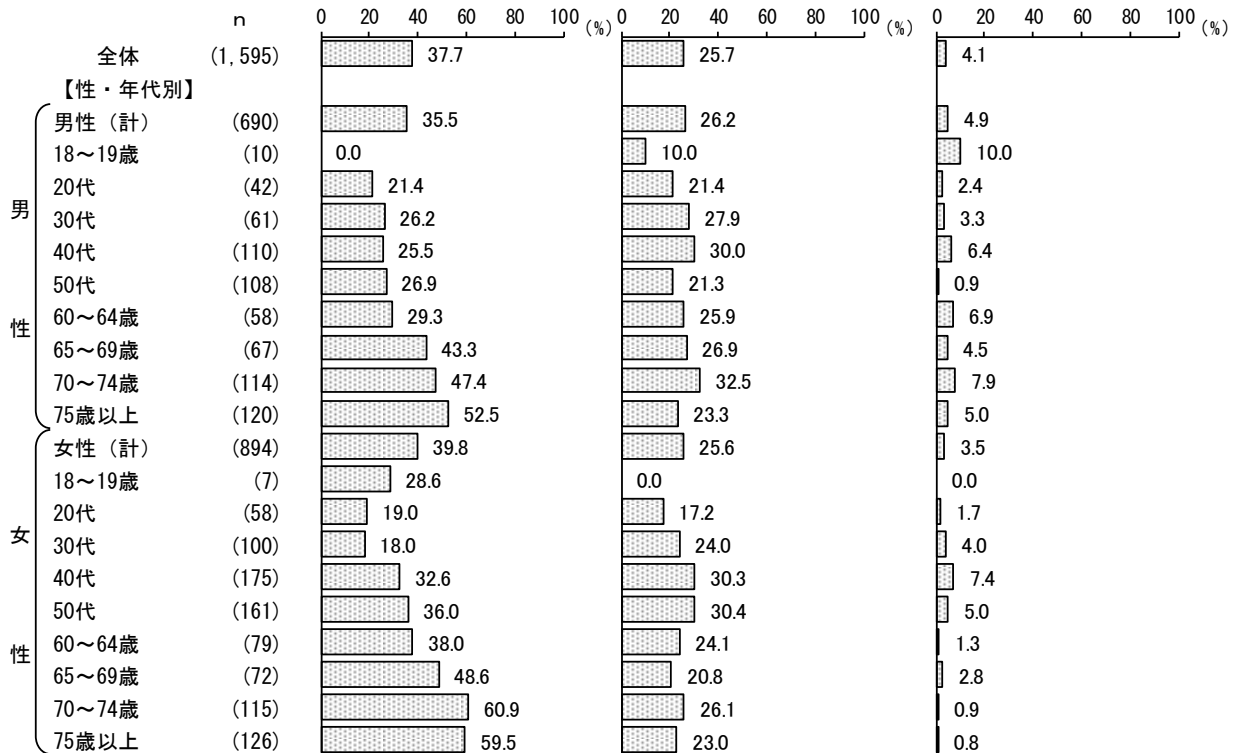
／地域別、性・年代別



□ テレビ・ラジオによる広報 □ チランやポスターによる広報 □ インターネット（Twitter、Facebook、LINEなどのSNSを含む）を通じた広報



□ 県の広報紙による広報 □ イベントでの広報 □ その他



このほかにも、「障害者施策について」や問18～問22について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、141人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「障害者施策について」の自由回答（抜粋）

- 障害があっても個人個人の個性だと考えてもらえる地域社会になってもらえればもっとより良い方向に世の中はまわっていくと思う。（女性、20代、東葛飾地域）
- 差別や偏見がない社会になって欲しい。それぞれの違いをおかしな事としないように、学んでいける社会になると良いと思います。（女性、40代、夷隅地域）
- 障害のある人がない人と同じように公共施設や交通機関等使用できるような設備を整えていくべきだと思う。（女性、50代、安房地域）
- 「障害者」としてひとくくりにできない障害も多いと思う。例えば発達障害と知的障害では程度にもよるが生活していく上での困難具合が全然ちがう。それぞれのニーズを細かく調べて対応してほしい。（女性、30代、印旛地域）
- 困っている人がいたら助けてあげたいとは普段から思っているのですが、実際に行動できたことがないことを恥ずかしく感じています。同じ思いをしている人は多いのではないのでしょうか。そんな人達がサッと行動できるような社会の雰囲気になれば良いのですが、良いアイデアは無いものではないでしょうか。（男性、50代、千葉地域）
- 自分だけかも知れませんが、ヘルプマークを知りませんでした。仮に知っていて、持っている人を見かけても何をしたら良いのか分からない。（男性、60～64歳、葛南地域）
- ヘルプマークをつけている人がここ数年すごく増えてきた感じがします。電車や街中でよく見かけるようになりました。見た目ではハンディキャップがあることが分からない人もいるのでとてもよい取り組みでもっと認知されると良いと思います。（男性、30代、東葛飾地域）
- ヘルプマークについての公的な情報発信は、SNS以外であまり見かけない気がする。千葉テレビのコマーシャルなどで、比較的高い年齢層の人への周知も図っていく必要があると思う。（女性、20代、千葉地域）
- ヘルプカード、ヘルプストラップを持つ側からだけでなく、声を掛けやすいように、「お手伝いしますマーク」など声を掛けやすくする配慮も必要と思う。（女性、40代、葛南地域）